

都留市の水道

● 上水道の歴史

日本の近代水道の発祥地は、明治二十年開設の横浜市ですが、都留市の上水道も、古い歴史があります。

明治二十年代の谷村は家中川、寺川、仲川などの水が生活用水として飲用水にも利用されてきました。その後、人口の増加に伴い、明治二十九年に町制が施行され、明治三十年代になると、河川の汚染が進み、伝染病がしばしば発生し、その主たる原因が川の水によることから、住民の間からも水道の計画が熱望されていました。

明治三十七年、谷村町の全域を給水区域とした上水道の計画がなされましたが、当時不況と厳しい町財政、その他の事情も絡み合っており、実施できない状況が続いていました。

しかし、大正八年にようやく、県の認可を受け、大正十年七月十日に工事を着工し、大正十二年二月一日、当時人口八、〇九八人に待望の水道水が供給されました。その概要は、現在の佐伯橋付近の家中川より表流水を取水して滝下浄水場で沈澱、ろ過、滅菌してから給水を行うもので、総工費約

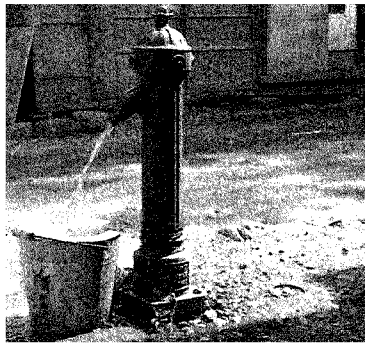
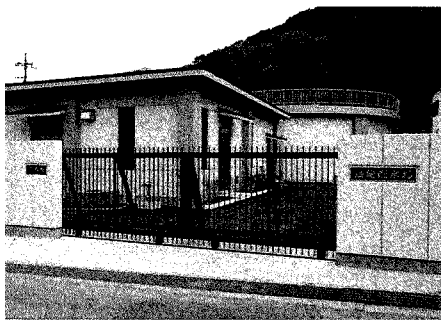
二十三万五千円で導水管三四〇メートル、沈澱池一池、ろ過池二池、配水池一池、配水管(φ七五×二〇〇ミリ)延長一〇、五三〇メートルの布設工事をわずか一年六カ月の短期間で完成させたことは、当時の技術から想像すると驚きの早さです。

また、当時は各戸ではなく、数戸で共同使用する「共用栓」が多く、谷村町時代の生活様式がしのべれます。

昭和二十九年都留市となつてからは、市民生活の向上とともに水需要の増大と家中川の汚染もあり、昭和三十五年に十日市場自治会のご理解を得る中で、富士山の伏流水を利用した現在のおいしい水が供給されています。

今後は阪神・淡路大震災の教訓と老朽対策を踏まえ、「より安全で、おいしい水」、「災害に強い施設」、「緊急時における給水確保」を図るため、計画的に施設整備を実施していきますので、今後とも水道事業の運営にご理解とご協力をお願いします。

今年3月に完成した法能配水場(第六水源)



数戸で共同使用していた「共用栓」

第一期拡張工事を記念して造られた鶴水園。魚も生息しています

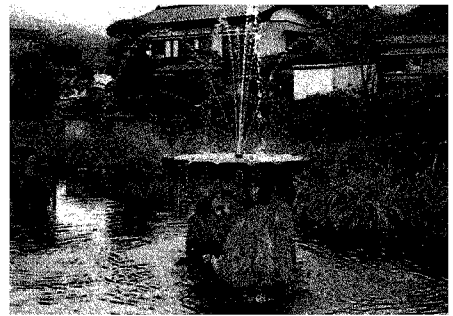


表1 おいしい水の条件 ()内は都留市の数値

蒸発残留物	30~200mg/l (106mg/l)	主にミネラルの含有量を示し、量が多いと苦味、渋味などが増し、適度に含まれると、こくのあるまろやかな味がします。
硬 度	10~100mg/l (54mg/l)	ミネラルの中で量的に多いカルシウム、マグネシウムの含有量を示し、硬度の低い水はくせがなく、高いと好き嫌いができます。カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦味を増します。
遊離炭酸	3~30mg/l (未検査)	水にさわやかな味を与えますが、多いと刺激が強くなります。
過マンガン酸カリウム消費量	3mg/l以下 (0.4mg/l)	有機物量を示し、多いと渋味をつけ、多量に含むと塩素の消費量に影響して水の味を損ないます。
臭 気 度	3以下 (0)	水源の状況により、様々な臭いがつくると不快な味がします。
残留塩素	0.4mg/l以下 (0.2mg/l)	水にカルキ臭を与え、濃度が高いと水の味をまずくします。
水 温	最 高 20℃以下 (16.0℃)	夏に水温が高くなると、あまりおいしくないと感じられます。冷やすことによりおいしく飲めます。

都留市の水道水はどうかという水のおいしさを感じる七項目のうち、六項目の要件を満たしました。残りの一項目を満たしていないではないかと思われるでしょうが、実は今回の検査項目にその一つが含まれていなかったため、

関係者の話では、調査してみれば、残りの一項目もほぼ、条件を満たすであろうとのこと。いづれにしても、都留の水は大半の諸条件を満たし、おいしい水であることは、科学的に立証されています。今後とも、安全でおいしい水を供給していくために、施設管理に努めていきます。

都留市の水はおいしい！

